

優秀賞 高学年の部

おまわりさん、ありがとう

群馬県・群馬大学教育学部附属小学校 4年

吉岡 舜

「どうしたの。」

きっと、そんなふうによさしく語りかけてくれていた、おまわりさんおすがたが目に浮かびます。

おじいちゃんは、ぼくが小学校二年生の時に亡くなりました。その年の2月ごろから、散歩先から老人ホームに戻れなくなり、たびたびおまわりさんいお世話になるようになりました。おじいちゃんには、とうによう病とちほう症の病気がありました。はじめは、散歩に出てまい子になり、道ですわっている所をパトロール中のおまわりさんが見つけて老人ホームまで送ってくれました。まだ老人ホームの名前が言えたからです。病院にも行ったのですが自分のいる場所がわからなくなる回数がふえました。お父さんがおじいちゃんを迎えに行くと、お父さんを弟と言ったり、なくなったおじいちゃんのお母さんを生きていると思い、「またおまわりさんのお世話になって、お母さんにおこられちゃうな。」

と、言ってました。一年前までいっしょに住んでいた、いとこの名前も忘れてしまいました。病気がどんどん悪くなってどんどん遠くに行ってしまうことが多くなりました。でも、おまわりさんのことは、おまわりさんだと分かっていたのでいつも、「ごめいわくをおかけしました。」と言いながら、大きなくにゃっと曲げて、おじぎをしていました。それから、家に一日何回も電話がかかってくるようになりました。おじいちゃんが一人では、老人ホームに帰れなくなってしまったので、家せいふさんにいっしょに散歩に行ってもらうことにしました。おじいちゃんは散歩の時間を楽しみに待つようになりました。休日にはぼくも、おじいちゃんと散歩に行きました。

若葉で辺りがいっぱいになりました。おじいちゃんは、それでもお気に入りの真っ赤なジャンパーを着て散歩していました。

その日は、たまたま家せいふさんから少しおくれます、と電話がありました。でも、おじいちゃんは、待ちきれず、一人で散歩に出てしまいました。数十分後老人ホームに一本んの電話が入りました。電車にひかれてしまったのです。

おまわりさんが現場まで来て色々調べてくれました。おじいちゃんは、救急車で群大病院へ運ばれました。病院にもおまわりさんが来てくれて、お父さんといろいろ話していました。病院に運ばれた時はもう死んでしまっていたけどおじいちゃんはやっぱりこう言いたかったと思います。

「ごめいわくをおかけしました。」

ぼくは、おじいちゃんにかわってこう言いたいです。

「おじいちゃんがいっぱいお世話になりました。」そして、「ありがとうございました。」と。